

松井 智子

MATSUI, Tomoko



【共同研究】

- 国際教育センター共同研究「多言語・多文化環境で育つ児童の学習言語の発達と障害—就学前・就学初期にできること、すべきことはなにか」を継続して進めた。本プロジェクトは、グローバル化の進行に伴い我が国でも増えつつある多言語・多文化環境で育つ児童の学習言語の発達と障害について、母語発達に焦点を当てて検討するものである。イマージョン教育の研究者、教育関係者、言語発達や発達障害・学習障害を専門とする研究者らが意見交換をし、現状の正確な把握と改善に向けた方略を見出すことを目的とする。
- 自然科学研究機構生理学研究所における磁気共鳴装置共同利用研究「語用論の神経基盤の解明に向けて」を継続して行った。
- 国立国語研究所の共同研究「日本語の間接発話理解：第一言語、第二言語、人工知能における習得メカニズムの認知科学的比較研究」を継続して行った。

【科研費などの研究】

- 「日本生まれの定住外国人幼児の認知発達の特徴：子どもの育ちに合った支援を目指して」平成27-29年度 挑戦的萌芽研究 研究代表者 松井智子
近年国内でも増加傾向にありながら、これまで実証的研究がほとんどされてこなかった定住外国人指定の乳幼児期の言語および認知発達の特性を明らかにし、就学後の学校適応との関連を検証することから、エビデンスに基づく教育現場の支援につなげることを目的としている。平成29年度は日系ブラジル人幼児の言語発達調査、心の理論などの社会性発達調査を実施した。さらに日系ブラジル人幼児と母親の自然会話のデータ収集と書き起こしを行った。
- 「会話における文脈理解力の発達要因の解明：「気になる子ども」に届く言葉がけのために」平成27-30年度 基盤研究(B) 研究代表者 松井智子
自閉症との関連で近年とくに注目されながら、未だ体系的な研究がなされていない文脈理解力の定型・非定型発達の規定要因を明らかにし、教育支援の指針を探ることを目的としている。平成29年度は自閉スペクトラム症就学児童と母親との自然会話のデータ収集と書き起こしを行った。
- 「言語の発達過程の認知科学研究」平成29-33年度 新学術領域研究(研究領域提案型) 研究代表者 小林春美 研究分担者 松井智子
平成29年度は自閉スペクトラム症就学児童の非母語の音韻理解の行動実験を行った。また在英日本人就学児童の言語発達調査の課題刺激の日本語版を作成した。

【研究業績】

論文

- Li, H., Oi, M., Gondo, K., & Matsui, T. (2017). How does being bilingual influence children with autism in the aspect of executive functions and social and communicative competence? *Journal of Brain Science*, 47, 21-49. DOI: https://doi.org/10.20821/jbs.47.0_21
- 藤野博・松井智子・東條吉邦・計野浩一郎 (2017) 言語的命題化は自閉スペクトラム症児の誤信理解を促進するか? : 介入実験による検証. 『発達心理学研究』第28巻2号.
- Oi, M., Fujino, H., Tsukidate, N., Kamio, Y., Yoshimura, Y., Kikuchi, M., Hasegawa, C., Gondo, K., & Matsui, T. (2017). Quantitative Aspects of Communicative Impairment Ascertained in a Large National Survey of Japanese Children. *Journal of Autism and Developmental Disorders*, 47(10), 3040-3048. DOI: <https://doi.org/10.1007/s10803-017-3226-x>
- Nakamura, T., Matsui, T., Utsumi, A., Yamazaki, M., Makita, K., Harada, T., Tanabe, H. C., & Sadato, N. (2017). The role of the amygdala in

incongruity resolution: the case of humor comprehension, *Social Neuroscience*, DOI: 10.1080/17470919.2017.1365760

著書

- 松井智子 (2018) 言語習得論 『新しい言語学』86-130. 東京：放送大学教育振興会.
- 松井智子 (2018) 語用論的コミュニケーション. 発達科学ハンドブック第9巻『社会的認知の発達科学』204-217. 東京：新曜社.
- 松井智子 (2018) 共同注意と発達語用論. 『コミュニケーション発達の理論と支援』31-40. 東京：金子書房

学会発表

- Sudo, M., & Matsui, T. The Compensational Effects of Bilingualism on Cognitive Control in Low-Income Japanese-Portuguese Children. Poster presentation. 2017 Society for Research in Child Development (SRCD) Biennial Meeting, Austin Convention Center, Austin, Texas, United States. 2017.4.6.
- Matsui, T., Imai, M., Mercier, H., Bernard, S., Catelain, T. Young children's understanding of prosodic cues about speaker confidence: Comparison between Japanese-speaking and French-speaking children. The 14th International Congress for the Study of Child Language. University Lyon 2, Lyon, France. 2017.7.17-21.
- Matsui, T. Recognition of emotion from lexical meaning and tone of voice: Comparison between children with or without autistic spectrum disorders. Beyond Meaning International Conference. National and Kapodistrian University of Athens, Athens, Greece. 2017. 9.13-15.
- Sudo, M. & Matsui, T. Language, executive function, and theory of mind in socioeconomically disadvantaged minority children in Japan. 2017 Cognitive Development Society Bi-ennial Conference. DoubleTree by Hilton Hotel, Portland, Oregon. 2017.10.13.

講演

- 「ことばとコミュニケーションの発達」東京言語研究所公開講座. 2017年6月17日.
- 「バイリンガル児・マルチリンガル児と発達障害」バイリンガル・マルチリンガル子どもネットワーク研究会 フォーラム「つまずく子どものためのアセスメント」. 2017年8月20日.
- 「言語的メタ表象と心理的メタ表象の発達—多言語環境で育つ子どもを例として」国立国語研究所 第89回NINJALコロキウム. 2018年1月23日.

【主な学会活動】

- 日本英語学会 (評議員)
- 日本言語科学会 (運営委員)
- 日本語用論学会 (運営委員)
- 日本発達心理学会 (編集委員)
- 日本心理学会
- 日本認知科学会
- International Pragmatic Society
- International Association for the Study of Child Language
- Society for Research in Child Development

【教育活動】

- 「人間関係の科学A」「臨床心理演習II」東京学芸大学大学院教育学研究科 学校心理専攻
- 「教育開発研究 国際教育論研究5」東京学芸大学連合大学院教育構造論講座
- 「思考と言語」非常勤講師 国際基督教大学教養学部